

ドローンで事前調査

各務原大橋を市と岐阜大

目視点検作業を効率化へ



橋の下を飛行しながら撮影するドローン＝各務原市の各務原大橋で

各務原市の木曾川に架かる各務原大橋で、市と岐阜大は七日、小型無人機「ドローン」を使って、定期点検の事前調査をした。

橋は二〇一三年に完成し、本年度は建築基準法に定められた五年に一度の目視点検を行う必要がある。だが、歩道の幅が広いこと

などから一般的な点検車は使えないという。十日間、交通規制して特殊な大型車両で点検する必要がある。そこで、市は昨年七月、

岐阜大付属インフラマネジメント技術研究センターと連携協定を結び、産業用ロボットを活用。あらかじめドローンで橋の写真を撮

影、分析し、目視点検の前にひび割れや腐食などの位置を特定して、作業を効率化する。市道路課によると、大型点検車の利用を四日間に短縮できるという。

この日は、デンソーの開発したカメラ付きドローンで約三十分間、橋の下部約五百平方メートルを撮影した。同センターの羽田野英明客員教授は「幅〇・二ミリのひび割れも見つけることができる。(活用を広げるには)安全対策が課題になる」と話した。目視による定期点検は来年一月の予定。
(大山弘)